

海を守る翼で大空へ！ 海自哨戒ヘリSH-60J体験搭乗

自衛隊神奈川地方協力本部横浜出張所（所長 山内哲也2等陸佐）は6月14日（土）、海上自衛隊厚木航空基地（神奈川県綾瀬市）で行われた哨戒ヘリコプター「SH-60J」の体験搭乗に参加者を引率した。

当日は、基地資料館の見学からスタート。参加者は海上自衛隊の歴史や任務について学び、理解を深めた。続いて哨戒ヘリコプター（回転翼機）「SH-60J」の概要説明を受けた後、格納庫へ移動し、日本周辺の広大な海域の警戒監視や哨戒任務のために開発された固定翼哨戒機「P-1」を間近で見学した。

その後、いよいよヘリコプターへの搭乗が開始された。飛行ルートは厚木基地を離陸し、みなとみらい地区上空を経由、江ノ島周辺を旋回して再び基地へ戻るという約25分のコース。眼下には横浜の街並みや湘南の海岸線が広がり、参加者からは「すごい！」「機体をこんなに近くで見るとは初めてで迫力があつた」といった声が上がっていた。

飛行後には、厚木基地内に展示されている、かつて活躍した米軍機の見学も行い、日米の長年にわたる交流の歴史にも触れた。また、部隊では近年の新たな取り組みとして、部隊オリジナルの御朱印も配布され、参加者にとつて記念に残る一枚となった。

横浜出張所は、「これからもさまざまなイベントを通じて自衛隊の活動や魅力を広く発信していく」としている。



陸上自衛隊高等工科学校の生徒が地域広報に協力 在校生の視点で学校生活を紹介

自衛隊神奈川地方協力本部平塚地域事務所（所長 兒玉憲幸1等陸尉）は、6月19日（木）から22日（日）にかけて、陸上自衛隊高等工科学校に在学中の現役生徒の協力を得て地域広報活動を実施。生徒による学校生活の紹介や体験談の共有などを通じて、中学生の進路選択の参考となる情報提供を行った。

6月20日（金）には、生徒が自身の母校である中学校を訪問し、在学時に所属していた部活動を見学したほか、恩師との再会も果たした。高等工科学校の生徒として一回り成長した姿に、学校関係者や後輩たちからは激励の声が多く寄せられた。教職員に対しては、学校生活の様子、授業内容、1日のスケジュール、休日の過ごし方などを説明し、「生活面のサポート体制が整っていて安心した」といった意見も聞かれた。

6月21日（土）には、進路の選択肢として高等工科学校を検討している中学生や保護者に向けて、現役生徒自身の言葉で学校の概要や入校の動機、訓練や寮生活の様子などを紹介した。参加した保護者からは、「リアルな声が聞けて安心した」「本人の成長を感じる話に感動した」などの感想が聞かれ、関心の高さがうかがえた。

平塚地域事務所は、「今後も生徒の進路選択を支援するとともに、教職員や保護者に対して、丁寧でわかりやすい情報提供に努めていく」としている。

